

A.2 吸収量の算定方法

A.2.1 認証対象期間

【選択】

【記入】

認証対象期間	2018年04月01日 ~ 2026年03月31日
--------	---------------------------

- ※1 認証対象期間の開始日は、プロジェクト開始日の含まれる年度の開始日とすること。
- ※2 認証対象期間の終了日は、認証対象期間の開始日から、同日より8年を経過する日若しくは2031年3月31日のいずれか早い日までの間で設定すること。
- ※3 認証対象期間の開始日が※1で定める日と異なる場合、又は認証対象期間の終了日が※2で定める日と異なる場合、どちらかに該当する場合は事務局までその旨を連絡すること。

A.2.2 吸収量

$$C_{total} = C_{PJ} - C_{cut} - C_{BL}$$

記号	定義	単位
C_{total}	当該年度の吸収量	tCO2
C_{PJ}	当該年度のプロジェクト実施後吸収量	tCO2
C_{cut}	当該年度のプロジェクト実施後排出量	tCO2
C_{BL}	当該年度のベースライン吸収量	tCO2

年度	当該年度の ベースライン 吸収量 C_{BL} (tCO2)	当該年度の プロジェクト 実施後吸収量 C_{PJ} (tCO2)	当該年度の プロジェクト 実施後排出量 C_{cut} (tCO2)	当該年度の 吸収量 C_{total} (tCO2)
2018年度	0	162.9	0	162
2019年度	0	215.0	0	215
2020年度	0	426.7	0	426
2021年度	0	518.7	0	518
2022年度	0	727.6	0	727
2023年度	0	747.8	0	747
2024年度	0	747.8	0	747
2025年度	0	738.3	0	738
2026年度	0	0	0	0
2027年度	0	0	0	0
2028年度	0	0	0	0
2029年度	0	0	0	0
2030年度	0	0	0	0
合計	0	4284.8	0	4280

- ※1 当該年度のプロジェクト実施後吸収量は、A.2.3に記載の当該年度のプロジェクト実施後吸収量を記載すること。
- ※2 当該年度のプロジェクト実施後排出量は、A.2.4に記載の当該年度のプロジェクト実施後排出量を記載すること。
- ※3 当該年度のベースライン吸収量は、A.2.5に記載のベースライン吸収量を記載すること。

A.2.3 プロジェクト実施後吸収量

$$C_{PJ} = C_{PJ,AG} + C_{PJ,BG}$$

記号	定義	単位
C_{PJ}	当該年度のプロジェクト実施後吸収量	tCO2
$C_{PJ,AG}$	当該年度の地上部バイオマス中の吸収量	tCO2
$C_{PJ,BG}$	当該年度の地下部バイオマス中の吸収量	tCO2

年度	一年当たり地上部バイオマス中の吸収量 $C_{PJ,AG}$ (tCO2)	一年当たり地下部バイオマス中の吸収量 $C_{PJ,BG}$ (tCO2)	一年当たりプロジェクト実施後吸収量 C_{PJ} (tCO2)	当該年度のモニタリング期間 (日)	当該年度のプロジェクト実施後吸収量 C_{PJ} (tCO2)
2018年度	129.9	33.0	162.9	365	162.9
2019年度	171.3	43.7	215.0	366	215.0
2020年度	339.6	87.1	426.7	365	426.7
2021年度	412.7	106.1	518.7	365	518.7
2022年度	578.5	149.1	727.6	365	727.6
2023年度	594.5	153.2	747.8	366	747.8
2024年度	594.5	153.2	747.8	365	747.8
2025年度	587.0	151.3	738.3	365	738.3
2026年度	587.0	151.3	738.3	0	0.0
2027年度	546.9	140.7	687.6	0	0.0
2028年度	555.5	142.9	698.4	0	0.0
2029年度	555.5	142.9	698.4	0	0.0
2030年度	570.0	146.7	716.8	0	0.0
合計					4284.8

※1 一年当たり地上部バイオマス中の吸収量及び一年当たり地下部バイオマス中の吸収量の詳細については、(別紙)吸収量算定シートに記載すること。

※2 モニタリング期間が年度の途中で終了する場合は、当該年度については「当該年度のプロジェクト実施後吸収量＝一年あたりプロジェクト実施後吸収量×モニタリング期間(日)÷365(日)」として算定すること。なお、当該年度が2015年度、2019年度、2023年度、2027年度の場合は「÷365(日)」に代えて「÷366(日)」で算定すること。

A.2.4 プロジェクト実施後排出量

$$C_{cut} = C_{cut,AG} + C_{cut,BG}$$

記号	定義	単位
C_{cut}	当該年度のプロジェクト実施後排出量	tCO2
$C_{cut,AG}$	当該年度の地上部バイオマス中の排出量	tCO2
$C_{cut,BG}$	当該年度の地下部バイオマス中の排出量	tCO2

年度	当該年度の 地上部バイオ マス中の排出 量 $C_{cut,AG}$ (tCO2)	当該年度の 地下部バイオ マス中の排出 量 $C_{cut,BG}$ (tCO2)	当該年度の プロジェクト 実施後排出量 C_{cut} (tCO2)
2018年度	0	0	0
2019年度	0	0	0
2020年度	0	0	0
2021年度	0	0	0
2022年度	0	0	0
2023年度	0	0	0
2024年度	0	0	0
2025年度	0	0	0
2026年度	0	0	0
2027年度	0	0	0
2028年度	0	0	0
2029年度	0	0	0
2030年度	0	0	0
合計	0	0	0

※1 当該年度の地上部バイオマス中の排出量及び当該年度の地下部バイオマス中の排出量の詳細については、(別紙) 排出量算定シート(FO-001)に記載すること。

A.2.5 ベースライン吸収量の考え方

(1) ベースライン吸収量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン吸収量は、1990年4月以降に森林施業（植栽、保育、間伐）を行った人工林の面積において、2013年4月以降適切な森林経営がなされなかった場合の吸収量とする。

(2) ベースライン吸収量の算定式

$$C_{BL} = 0$$

記号	定義	単位	想定値
C_{BL}	当該年度のベースライン吸収量	tCO2	0

A.3 モニタリング計画

モニタリング項目			モニタリング方法 ※1			計量器			備考
記号	定義	単位	概要	詳細	頻度	計量器の種類	精度	計量器の校正方法の説明	
Area _{Forest,i}	森林施業が実施された森林の面積 (0.9を乗じた値)	ha	実測 (コンパス測量)	森林施業の実施に当たり補助金を受給した際に実施した実測の結果を使用	初回検証申請時に1回	レーザー距離計 (トウルーパールス360R)	0.3~1m	使用前点検	
Area _{Forest,cu_{t,i}}	主伐が実施された森林の面積	ha	実測 (コンパス測量)	主伐実施の際は領域毎に測量 (計画時点で主伐予定なし)	主伐実施時に1回	レーザー距離計 (トウルーパールス360R)	0.3~1m	使用前点検	
ΔTrank _{SC,i}	(年間) 幹材積成長量	m ³ /ha	システム収穫表 (LYCS等)	(使用する収穫予想表の名称を記載すること) 静岡県スギ・ヒノキ人工林 収穫予測表	検証申請時に1回	—	—	—	
Trank _{SC,cut,i}	幹材積量	m ³ /ha	システム収穫表 (LYCS等)	(使用する収穫予想表の名称を記載すること) 静岡県スギ・ヒノキ人工林 収穫予測表	検証申請時に1回	—	—	—	
WD _i	容積密度	t/m ³	デフォルト値	モニタリング・算定規程	検証申請時に最新のものを使用	—	—	—	
BEF _i	拡大係数	—	デフォルト値	モニタリング・算定規程	検証申請時に最新のものを使用	—	—	—	
R _{ratio,i}	地下部率	—	デフォルト値	モニタリング・算定規程	検証申請時に最新のものを使用	—	—	—	
i	地位等による階層	—	実測	(地位特定のためのモニタリングプロットは、設定箇所を森林計画図・オルソ画像、空中写真等を用いて別添資料として示すこと) モニタリング・算定規程に準拠	初回検証申請時に1回	(胸高直径の測定に使用する計量器を記載) 輪尺	—	使用前点検	
						(樹高の測定に使用する計量器を記載) レーザー距離計 (トウルーパールス360R)			

※1 モニタリングエリアごとに異なるモニタリング方法を適用する場合には、行を追加した上でモニタリングエリアごとに記載すること。